

# 平成 21 事業年度業務実績報告書添付資料

独立行政法人海技教育機構

## 目 次

資料 1 : 独立行政法人海技教育機構組織改編図	1
資料 2 : 本科、専修科応募・入学状況	2
資料 3 : 本科、専修科及び海上技術コースの在籍者数	3
資料 4 : 教科書改訂資料	4
資料 5 : 求人数及び就職者数の推移	5
資料 6 : 平成 21 年度関係教育機関及び海運業界との意見交換会開催実績	6-7
資料 7 : 平成 21 年度教員研修実績	8
資料 8 : 授業評価アンケート報告書	9-10
資料 9 : 平成 21 年度保護者アンケート報告書	11-12
資料 10 : 広報活動資料	13
資料 11 : 平成 21 年度研究分野別一覧表	14
資料 12 : 委員等の派遣実績	15-16
資料 13 : 平成 21 年度研究発表実績一覧	17-18
資料 14 : 平成 21 事業年度監査報告書 ( 抜粋 )	19-28
資料 15 : スクールレビュー実施報告書 ( 抜粋 )	29-33



資料 2

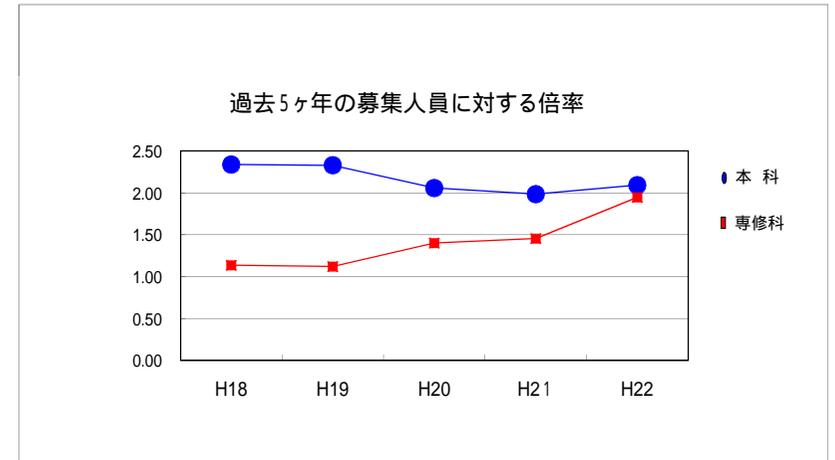
本科、専修科応募・入学状況  
(平成18年度～平成22年度)

本科

学校	小樽				宮古				館山				唐津				口之津				合計			
養成定員	30								40				40				30				140(平成19～)			
年度	募集人員	応募	入学	倍率	募集人員	応募	入学	倍率	募集人員	応募	入学	倍率	募集人員	応募	入学	倍率	募集人員	応募	入学	倍率	募集人員	応募	入学	倍率
H18		66	33	2.20	40	82	35	2.05		87	44	2.18		125	43	3.13		61	35	2.03	180	421	190	2.34
H19		52	35	1.73	0	/	/	/		67	41	1.68		126	48	3.15		81	36	2.70	140	326	160	2.33
H20	30	52	34	1.73						78	45	1.95	40	83	41	2.08	30	75	33	2.50		288	153	2.06
H21		53	34	1.77						74	42	1.85		85	46	2.13		66	33	2.20		278	155	1.99
H22		60	32	2.00						67	43	1.68		97	40	2.43		69	35	2.30		293	150	2.09
小計	150	283	168	1.89	40	82	35	2.05	200	373	215	1.87	200	516	218	2.58	150	352	172	2.35	740	1,606	808	2.17

専修科

学校	宮古				清水				波方				計			
養成定員	40(平成20～)				110				90				240(平成20～)			
年度	募集人員	応募	入学	倍率	募集人員	応募	入学	倍率	募集人員	応募	入学	倍率	募集人員	応募	入学	倍率
H18		/	/	/		117	92	1.06		110	83	1.22	200	227	175	1.14
H19		/	/	/		134	107	1.22		90	69	1.00		224	176	1.12
H20		39	35	0.98	110	153	108	1.39	90	144	91	1.60		336	199	1.40
H21	40	55	49	1.38		187	115	1.70		107	86	1.19	240	349	250	1.45
H22		75	46	1.88		197	115	1.79		195	94	2.17		467	255	1.95
小計	120	169	130	1.41	550	788	537	1.43	450	646	423	1.44	1120	1,603	800	1.43



入学定員及び応募者数には乗船実習科並びにインターンシップコースは含まない

乗船実習科の人数は、乗船実習科に進学者の数

資料3

本科、専修科及び海上技術コースの在籍者数  
(平成22年4月1日現在)

学校別

海上技術学校	学校名	学年	定員	在籍者数
	小樽校	1年	30	33
		2年	30	29
		3年	30	32
	館山校	1年	40	43
		2年	40	39
		3年	40	39
	唐津校	1年	40	40
		2年	40	40
		3年	40	40
口之津校	1年	30	35	
	2年	30	27	
	3年	30	25	
合計			420	422

学年別

学年	定員	在籍者数
1年	140	151
2年	140	135
3年	140	136

学校別

海上技術(専修科)大学校	学校名	学年	定員	在籍者数
	宮古校	1年	40	46
		2年	40	49
	清水校	1年	110	119
		2年	110	110
	波方校	1年	90	100
		2年	90	82
合計			480	506

学年別

学年	定員	在籍者数
1年	240	265
2年	240	241

コース別

海上技術コース	学校名	学年	定員	在籍者数
	航海	1年	10	8
		2年	10	7
	機関	1年	10	7
		2年	10	5
	航海専修	1年	5	7
		2年	5	4
	機関専修	1年	5	4
		2年	5	1
	航海専攻	2年	5	3
		3年	5	4
	機関専攻	2年	5	5
		3年	5	3
合計			80	58

学年別

学年	定員	在籍者数
1年	30	26
2年	40	25
3年	10	7

## 資料 4

## 教科書改訂資料

20年度		21年度		22年度(予定)		23年度(予定)		24年度(予定)	
海洋気象	口之津	航法	清水	航法	清水	海洋気象	口之津	運用	小樽
機械工作	口之津	航海計器	唐津	航海計器	唐津	機械工作	口之津	運用	小樽
航海実技	館山	運用	小樽	運用	小樽	航海実技	館山	海事法規	館山
総合訓練・救命	波方	運用	小樽	海事法規図集	館山	総合訓練・救命	波方	機関実技 演習ノート	館山
総合訓練・消火	波方	海事法規	館山	海運実務	清水	総合訓練・消火	波方	航海計器	唐津
海上実習 テーマ集	宮古	情報技術	唐津	海事英語	宮古	海上実習 テーマ集	宮古	情報技術	唐津
		機関実技 演習ノート	館山	船用機関	波方			航法	清水
				船用機関	波方				
6種		7種		8種		6種		7種	

## 資料5

## 求人数及び就職者数の推移

## 1. 求人数の推移 (\*4月1日付け求人・就職状況調査による)

	海上	陸上	合計
17年度	591	69	660
18年度	988	85	1,073
19年度	1,184	184	1,368
20年度	962	164	1,126
21年度	667	67	734

## 2. 就職者数の推移

	卒業者数	就職希望者数	就職者数			就職率	
			海上	陸上	合計	海上就職率	合計就職率
17年度	360	300	265	23	288	88.3%	96.0%
18年度	384	332	296	21	317	89.2%	95.5%
19年度	352	307	289	14	303	94.1%	98.7%
20年度	365	326	310	11	321	95.1%	98.5%
21年度	395	359	351	2	353	97.8%	98.3%

\*いずれの表も、司ちゅう・事務科を除く

海上就職率 = 海上就職者数 ÷ 就職希望者数  
 合計就職率 = 合計就職者数 ÷ 就職希望者数

## 資料6

## 平成21年度 関係教育機関及び海運業界との意見交換会開催実績

番号	対象機関	開催日	開催場所	出席者		議題等
				海技教育機構	対象者等	
1	北海道運輸局海事振興部	H21.4.10	国立小樽海上技術学校	校長、教頭、指導課長	船員労政課長、専門官	前年度就職状況、船員確保の情報交換
2	北海道運輸局	H21.4.20	小樽庁舎	校長、教頭	運輸局次長	就職情報交換
3	宇城海事地域人材確保連携協議会	H21.4.23	宇城市	校長、教務課長	宇城市、運輸支局、海事産業関連団体、海事教育機関他	人材確保育成に関する情報意見交換
4	佐伯海事地域人材確保連携協議会	H21.5.12	佐伯市	教務課長	佐伯海事地域人材確保連携協議会	平成21年度総会の議事内容について他
5	佐伯海事地域人材確保連携協議会	H21.5.29	佐伯市	教務課長	佐伯海事地域人材確保連携協議会	平成20年度事業報告及び会計決算報告について、平成21年度事業計画及び予算案について
6	東北運輸局	H21.6.11	東北運輸局	教頭	沿岸自治体担当者	次世代海運産業の人材確保
7	愛媛地方内航船員対策連絡協議会	H21.6.24	国立波方海上技術短期大学	校長、全教員、学生	四国運輸局、内航事業者、NHK記者	内航海運会の現状
8	全日本海員組合九州関門地方支部	H21.6.29	北九州市門司	指導課長	全日本海員組合九州関門地方支部、各船員養成機関及び	学生の海上就職に向けての意見交換
9	神戸船舶(株)	H21.6.30	国立小樽海上技術学校	校長、教頭	業務部長	求人活動、業界情報交換
10	九州地区船員対策連絡協議会	H21.7.1	福岡市	校長、指導課長	九州運輸局、日本船主協会、教育機関	船員対策に関する情報意見交換他
11	中部地方船員対策連絡協議会	H21.7.15	国立清水海上技術短期大学	校長、教頭、学生課長	会長他7名	意見交換会
12	海技大学校・8社連絡懇談会	H21.7.17	海技大学校	理事、企画部長、企画課長、企画課主査、企画課主任、航海科長、機関科長、学生課長	船会社8社13名	海技大学校からの報告事項、各社研修報告実施報告、他
13	(独)航海訓練所	H21.8.7	(独)海技教育機構清水本部	教育部長、情報運用課長、企画課長、教育課主幹	教育部長、教務課長、企画研究課調査役他	航海訓練所・海技教育機構連絡会議
14	香川県海運組合	H21.8.26	国立波方海上技術短期大学	校長、教頭、課長	内航事業者6名	内航船員対策について意見交換
15	(独)航海訓練所	H21.10.15	マリンビル内	練習船職員	校長、教頭、教務課長	意見交換会
16	海技教育財団	H21.11.18	国立清水海上技術短期大学	校長、教頭、学生課長	スミセ海運2名	意見交換会
17	九州地区船員対策連絡協議会懇談会	H21.12.2	国立口之津海上技術学校	校長、教頭、指導課長	九州海運局、九州地方海運組合連合会、全国内航タンカー組	学校側教育状況説明、意見交換
18	四国地方船員対策連絡協議会	H21.12.2	国立波方海上技術短期大学	学生課長	内航事業者12名、運輸局課長、他教育機関	内航船員就職活動の現況
19	津軽海峡フェリー(株)	H21.12.14	国立小樽海上技術学校	校長、教頭、指導課長	船員課長、船員係長	次年度採用見通しについて
20	(独)航海訓練所	H21.12.16	(独)海技教育機構清水本部	教育部長、教育課長、教育課主幹	教育部長、教育課長他	航海訓練所・海技教育機構連絡会議
21	海技大学校・9社連絡懇談会	H21.12.18	飯野海運(株)	理事、企画部長、教育部長、航海科長(代理)、企画課主査、企画課主任	船会社9社17名	海技大学校からの報告、各社より海技大学校に対する意見・要望等
22	全国内航タンカー海運組合	H21.12.21	国立清水海上技術短期大学	校長、教頭、学生課長	海工務部長他4名	意見交換会
23	九州海事産業次世代人材育成推進協議会第4回幹事会	H22.1.14	福岡市	教務課長	九州運輸局、海事産業関連団体、海事教育機関	人材育成に関する活動報告と次年度の計画、意見交換

24	中部地方船員対策連絡協議会	H22.1.24	国立清水海上技術短期大学校	学生課長	会長他6名	意見交換会
25	ユーザモニター会議	H22.2.5	海技大学校	理事、企画部長、教育部長、企画課長、校長、航海科長、機関科長	船会社14名、関係団体3名	海技大学校の現状報告、ユーザモニターからの意見及び要望、他
26	第3回九州海事産業次世代人材育成推進協議会	H22.2.9	福岡市	校長、教務課長	九州運輸局、海事産業関連団体、海事教育機関	人材育成に関する活動報告と次年度の計画、意見交換
27	苫小牧海運(株)	H22.2.12	国立小樽海上技術学校	校長、教頭、指導課長	社長、常務取締役、海務部次長	今後の求人見通しについて
28	熊本県海運組合懇談会	H22.2.17	国立口之津海上技術学校	教頭、指導課長	熊本県海運組合加盟船社	学校側教育状況説明、意見交換
29	全日本海員組合東北地方支部	H22.2.22	国立宮古海上技術短期大学校	学生課長	地方副支部長	奨学金制度の創設について
30	東北運輸局	H22.2.22	東北運輸局	校長、教頭、学生課長	船員労政課長、岩手運輸局次長	次世代確保、チャレンジフェア、セミナーについて
31	日本内航海運組合総連合会 船員対策委員会	H22.3.2	東京海運ビル	校長	船員対策委員会	船員教育機関の現状及び求人・就職状況

## 資料 7

## 平成21年度 教員研修実績

	開催場所	日数	人数	区分
新採用者研修	機構本部	3日	14	内部研修
ファーストステップ研修	機構本部	2日	7	内部研修
技能研修	国立清水海上技術短期大学校	2日	8	内部研修
内航船乗船研修	鶴宝丸(鶴見サンマリン株)	5日	1	"
	王公丸(佐藤國汽船株)	7日	1	
海技丸乗船研修	海技丸(海大練習船)	5日	2	"
		5日		
小型教員研修	館山校	3日	4	"
	唐津校	2日	3	
	清水校	2日	4	
	清水校	2日	10	
	波方校	2日	3	
アーク溶接講習		1日	1	外部研修
自由研削砥石研修		1日	6	"
玉掛講習		3日	2	"
クレーン講習		1日	2	"
ガス溶接講習		2日	1	"
教育研修		7日	3	"
甲種防火管理新規講習		2日	1	"

73

自主研修  
派遣研修45  
28

# 授業評価アンケート報告書

海技士教育科海技課程（本科・専修科）

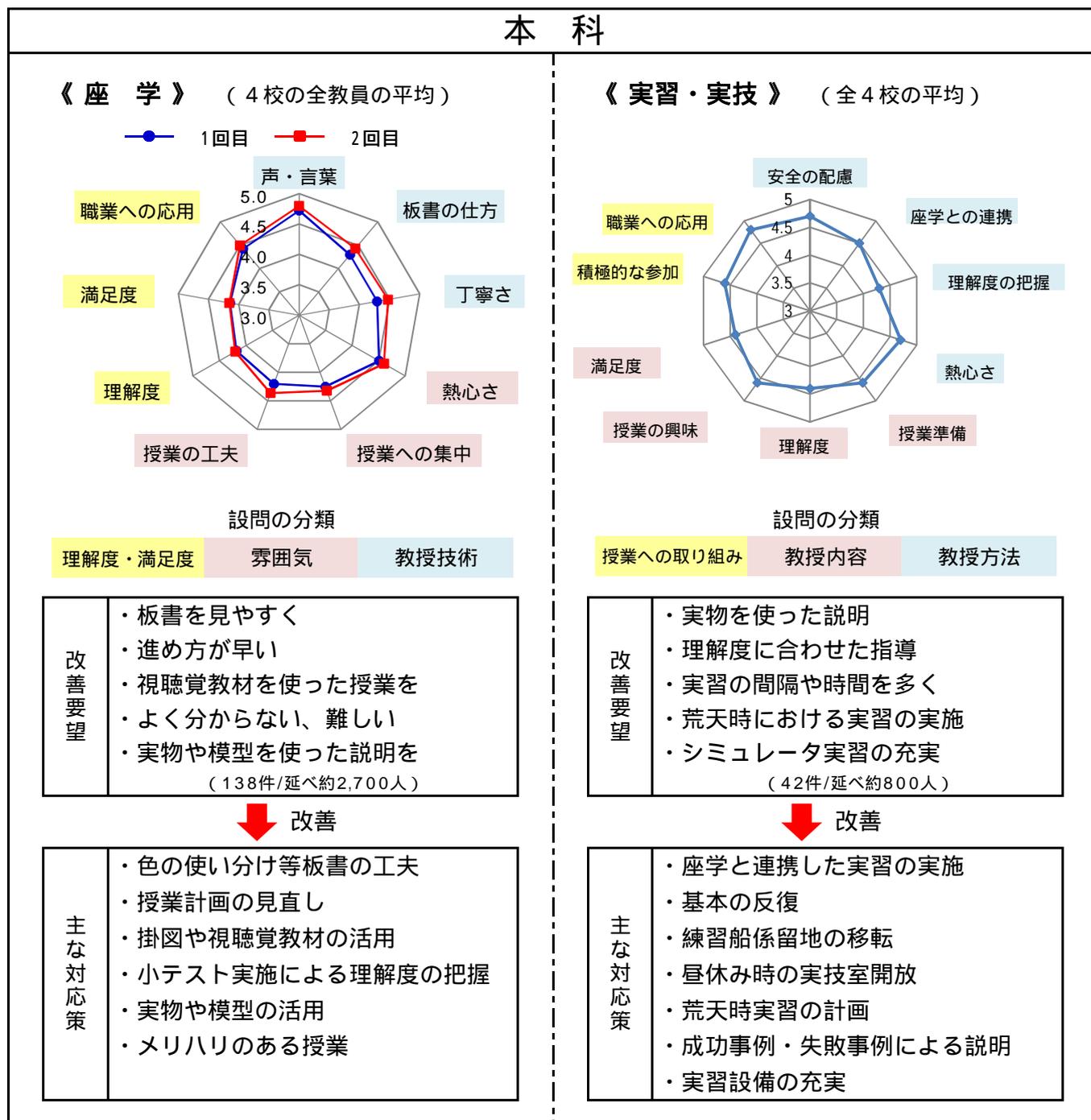
（平成 21 年度）

## 1. 実施方法

(1)座学 年度内に 2 回実施（専修科 2 年のみ 1 回）

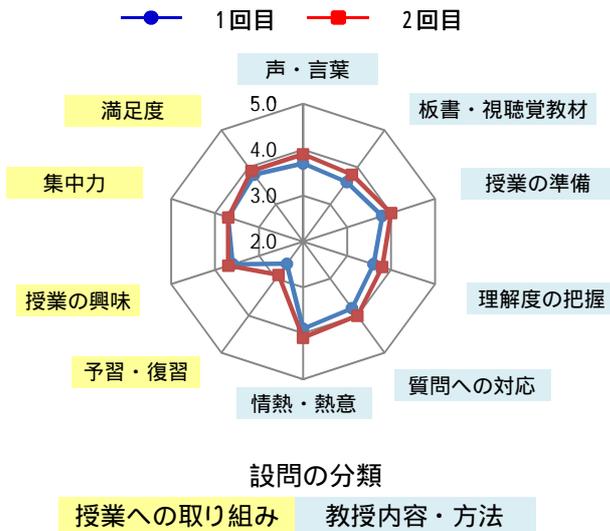
(2)実習実技 年 1 回実施（専修科 2 年は実施しない）

## 2. 集計結果



## 専修科（1年）

### 《座学》（3校の全教員の平均）

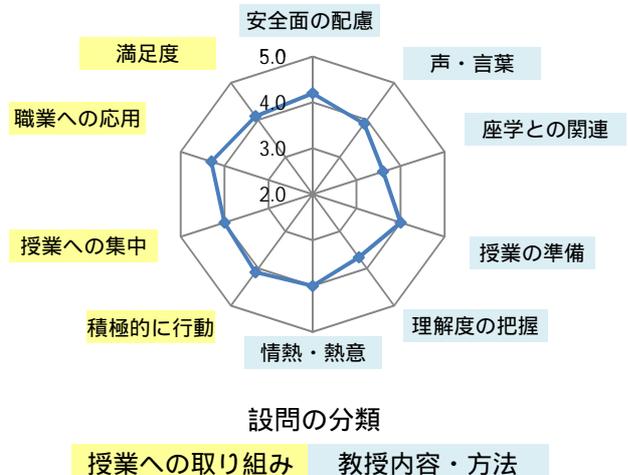


改善要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書に工夫を</li> <li>・進め方が早い</li> <li>・よく分からない、難しい</li> <li>・実物や模型、写真等を活用した授業</li> <li>・詳しい説明を</li> </ul> <p style="text-align: center;">(74件/延べ約1,700人)</p>
------	---

↓ 改善

主な対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色の使い分け等板書の工夫</li> <li>・授業計画の見直し</li> <li>・掛図や視聴覚教材の活用</li> <li>・小テスト実施による理解度の把握</li> <li>・実物や模型の活用</li> <li>・メリハリのある授業</li> </ul>
-------	---

### 《実習・実技》（全3校の平均）

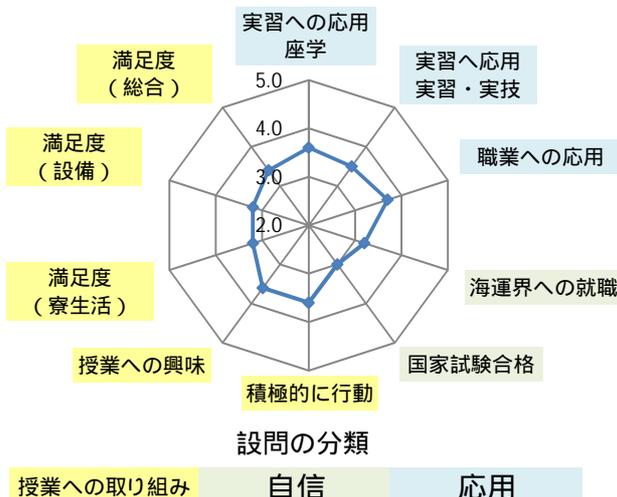


改善要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を深めた実習を</li> <li>・進め方が早い</li> <li>・グループの人数が多い</li> <li>・手順が教員により違う</li> <li>・座学との関連づけを</li> <li>・理解度を把握した実習を</li> </ul> <p style="text-align: center;">(56件/延べ約530人)</p>
------	--

↓ 改善

主な対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座学と連携した実習の実施</li> <li>・基本の反復</li> <li>・練習船係留地の移転</li> <li>・昼休み時の実技室開放</li> <li>・荒天時実習の計画</li> <li>・成功事例・失敗事例による説明</li> <li>・実習設備の充実</li> </ul>
-------	--

## 専修科（2年）：全3校の平均



改善要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実情に即した実習の実施</li> <li>・実習の間隔を短く</li> <li>・国家試験への対応</li> <li>・教員の指導方針の統一</li> <li>・学生主体の操作を</li> </ul> <p style="text-align: center;">(14件/延べ約420人)</p>
------	---

↓ 改善

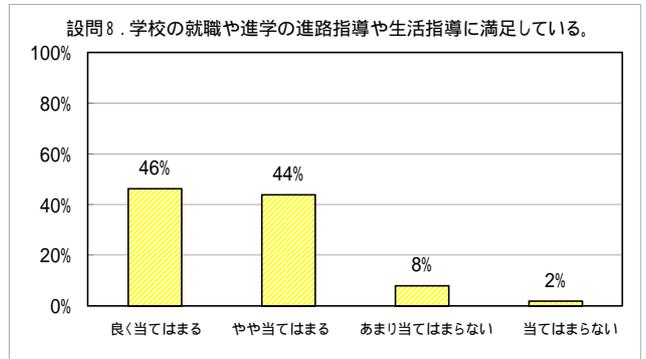
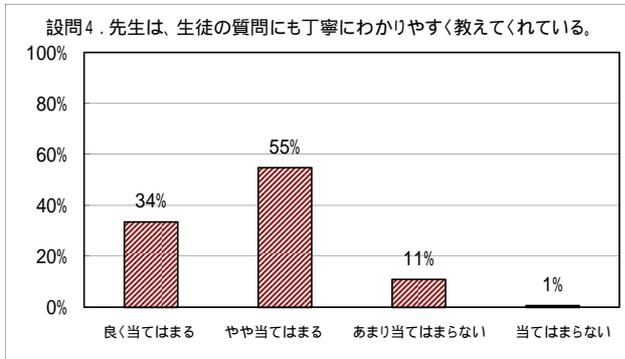
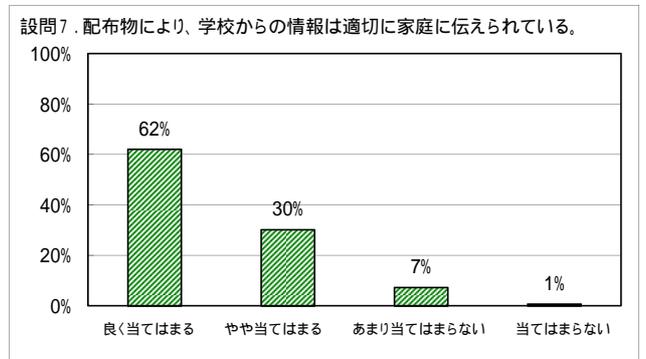
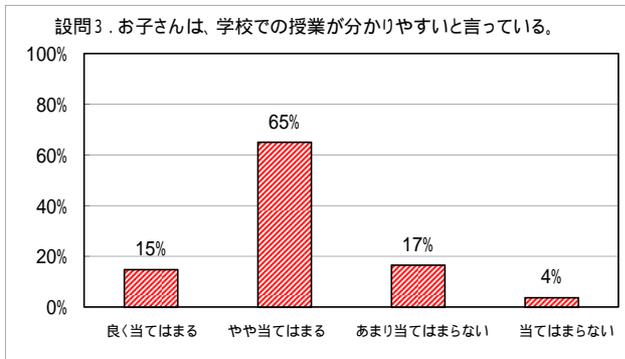
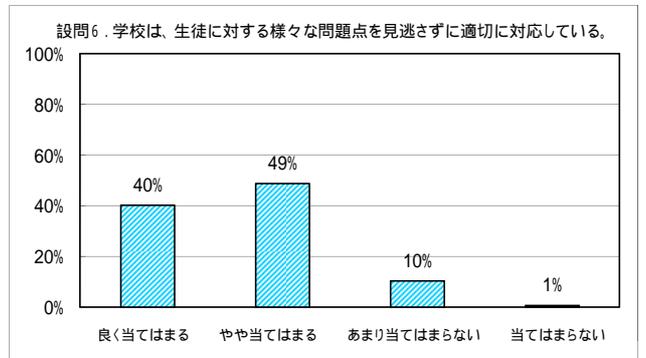
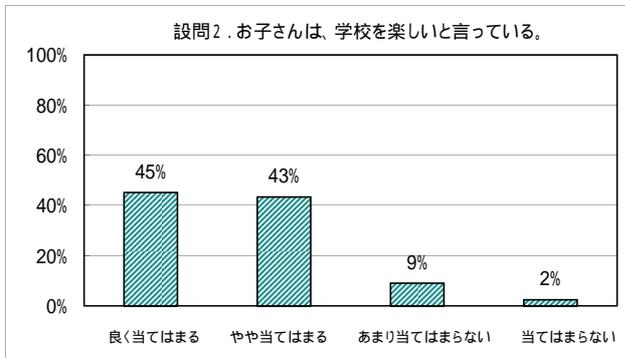
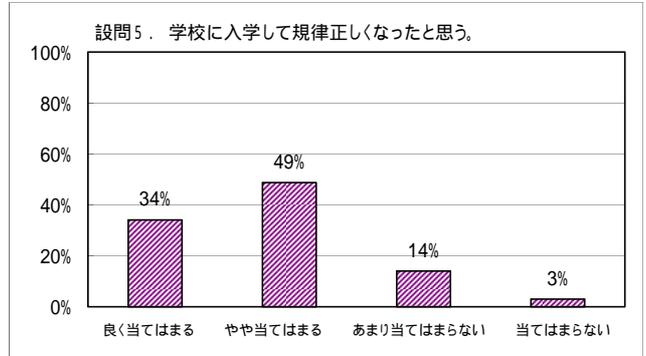
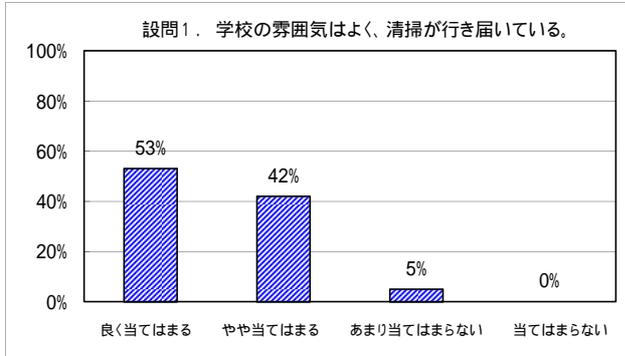
主な対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備の充実</li> <li>・模擬口述試験の実施</li> <li>・試験対策への早期取り組み</li> <li>・指導方法、内容統一の徹底</li> </ul>
-------	--

## 平成21年度 保護者アンケート 報告書

昨年度に引き続き、保護者等の外部の意見を取り入れることによって、授業改善や学習指導、生活指導につなげるため保護者アンケートを実施することとした。

実施にあたっては、保護者会実施校（本高校）でアンケートを行い、対象者は保護者会への参加者とした。

## 1. 回答を4つの中から選択する形式の設問および集計結果



所感

## 2. 自由記載形式の設問（代表的な意見を記載）

(1) 授業見学した感想はいかがでしたか。 ... 回答数 33

肯定的な意見 (17 / 33) 51.5%

- ・基礎学習をしっかりしてと思いました
- ・熱心に講義していると思う
- ・緊張感と笑いがあり、楽しい授業でした
- ・理解しやすく丁寧に教えられ、子供達へも緊張ばかりさせるのではなく良かった
- ・みんな楽しそうにしている
- ・子供達は手をあげたり、質問に答えたり、感心しました。

否定的な意見 (16 / 33) 48.4%

- ・少しだらけすぎています
- ・生徒の態度が悪い
- ・機敏さが無い
- ・子供達の元気を感じなかった

(2) 本校に入学させて、お子さんに期待していることは何ですか。 ... 回答数 83

- ・自立心、責任感の向上
- ・海技士の資格取得
- ・一人前の船員になること
- ・自分の想いを形にして欲しい。人間的に成長して欲しい。
- ・人の命や財産を預かる場合の多い海上輸送にふさわしい人間造りの指導

(3) 学校に改善してもらいたいことがありますか。

教育設備 ... 回答数 10

- ・寮内に施錠可能な貴重品用ロッカーの設置
- ・寮の食事の質
- ・教室、トイレの清掃
- ・自主学習のための自習室

就職や進学の指導 ... 回答数 25

- ・進学のための具体的な流れの例、合格体験記、先輩のお話が聞きたい
- ・求人情報を、学校便り配布時に一緒に同封していただきたい
- ・目的意識が持てるような指導
- ・進学についてのメリット等について話して欲しい

(4) 学校に入学して、お子さんが変わったところはありますか。

よい面 ... 回答数 88

- ・普段の生活が規則正しくなった
- ・両親に感謝できるようになった
- ・挨拶が今まで以上に丁寧になった。人のことを考えるようになった
- ・礼儀、年上を敬う。友人を大切に、学校生活を楽しんでいる
- ・精神面において強くなった
- ・自信が出てきた。自分の選んだ職業へのプライドが見られます

悪い面 ... 回答数 33

- ・自分本位になった
- ・態度口調が変わらない
- ・たばこの味を覚えた
- ・主体性がなく、仲間に引っ張られる
- ・女の子だと言葉遣いが荒くなった
- ・学生らしくない身だしなみ

(5) その他 ... 回答数 35

- ・寮生活でメリハリがついた生活をしている。地方で自宅にいと、たぶん流されていたと思う。とても、本人にとってこの学校に入ったことは良かったと思う。
- ・ブログいつも拝見しています。楽しみにしていますので頑張ってください。
- ・子供達をよく見、よく接していただき、丁寧なご指導をしていただいていると思います。少しでも協力させていただけたらと思っています。親達も。
- ・服装が乱れすぎています。制服をきちんと着用するようにきつのご指導ください。
- ・親元を離れて生活しているので、とてもたくましくなり、自立心が生まれてきて良かったと思います。
- ・島国日本を支えるこの学校の益々の発展をお祈りいたします。

## 資料10

## 広報活動資料

	本科									
	小樽		館山		唐津		口之津		計	
	H20	H21	H20	H21	H20	H21	H20	H21	H20	H21
学校訪問数（中学校）	576	650	208	249	484	573	330	148	1,598	1,620
雑誌等への掲載回数	19	29	9	8	103	112	3	89	134	238
学校説明会への参加数	7	7	0	0	4	3	5	2	16	12
体験入学等開催回数	2	3	6	6	2	2	2	2	12	13
学校案内の発送部数	1,545	1,971	3,866	4,331	2,470	1,027	6,261	4,111	14,142	11,440
練習船寄港時のP R		1		1		4	2	4	2	10

	専修科									
	宮古		清水		波方		本部		計	
	H20	H21	H20	H21	H20	H21	H20	H21	H20	H21
学校訪問数（高等学校）	417	575	241	407	336	362	13	352	1,007	1,696
雑誌等への掲載回数	16	15	12	12	26	76			54	103
学校説明会への参加数	3	2	5	5	3	2			11	9
体験入学等開催回数	4	4	5	6	6	6			15	16
学校案内の発送部数	2,768	1,136	4,250	6,849	9,642	4,054			16,660	12,039
練習船寄港時のP R	1		1		2				4	0

## [重点研究 (H18からの継続研究)]

研究番号	研究の分類	研究テーマ名	代表者
A06-001-4	E	船舶運航におけるOJTに関する研究	航海科長
A06-002-4	E	SMS・ETM船員教育訓練の研究	機関科長

## [一般研究 (H18からの継続研究)]

研究番号	研究の分類	研究テーマ名	代表者
06-001-4	A	GPSマルチパス波を応用した計測に関する研究	奥田成幸

## [一般研究 (H19からの継続研究)]

研究番号	研究の分類	研究テーマ名	代表者
07-002-3	E	自動ボイラ制御の教育訓練用補助ボイラシミュレータの研究	伊丹良治
07-003-3	A	操船におけるA I S情報の信頼性に関する研究	堀 晶彦
07-004-3	D	閉水域における船舶運航に係わる海洋環境に関する研究	藤谷達也
07-005-3	E	ディーゼル主機遠隔操縦シミュレータを用いた訓練手法の研究	佐藤圭司

## [一般研究 (H20から継続研究)]

研究番号	研究の分類	研究テーマ名	代表者
08-001-2	E	船用機関士のシステム操作におけるヒューマン・エラーに関する研究	池西憲治
08-002-2	E	船用機関士に対する効果的なチーム訓練方法に関する研究II (チーム訓練に対する新たな構想)	近藤宏一
08-003-2	B	船舶及び船用機関の安全管理技術に関する研究	引間俊雄
08-005-2	E	船用プラント学習システムに関する研究( )	野尻良彦
08-006-2	A	操船における速度情報の総合的・安全・効率的かつ積極的活用に関する研究	新井康夫
08-007-2	F	海事政策と異文化理解に関する研究～アメリカ文化の変容と「海	杉田和己
08-008-2	G	海事英語における船の動勢の描写についての一研究	田中賢司
08-009-2	A	操船者の立場から見た船橋統合システムの活用に関する研究	堀 晶彦
08-010-2	D	再生可能エネルギーの船舶及び港湾設備への導入とその安全管理に関する研究	角 和芳

## [一般研究 (H21新規研究)]

研究番号	研究の分類	研究テーマ名	代表者
09-001	E	船舶の機関システムの保守管理に関する調査研究	桑島隆志
09-002	F	事例研究 - 護衛艦「あたご」漁船「清徳丸」衝突事件-	岩瀬 潔
09-003	B	熟練機関士における技能及び知識の獲得方法に関する研究	前田 潔
09-004	E	危機対応型ETM訓練について機関系フルミッションシミュレータを用いた数値解析による客観評価の研究	城戸八郎
09-005	C	船員の静電防防止具着用に関する実験的研究	山本一誠
09-006	A	ウェザールーティングの有効性に関する考察	品川史子
09-007	B	微細気泡混入船用燃料油の燃焼特性に関する研究	永井義和
09-008	F	PSCの法的根拠とその課題	逸見 真
09-009	F	ISMコードの有すべき犯罪抑止性	逸見 真

## [受託・共同研究]

H20から	多視点での視界再現機構の応用的開発	新井康夫
H20から	操船シミュレータ訓練を通じての調査研究	増田憲司
H21新規	ニューラルネットワークを活用した航行安全性評価手法	品川史子

重点研究	2
一般研究	23
受託研究	3
総計	28

## 研究の分類

- A 船舶の運航技術に関する研究(航海系)
- B 船舶の運航技術に関する研究(機関系)
- C 船舶の安全性・信頼性に関する研究
- D 海洋汚染等船舶の運航に関して発生する環境問題に関する研究
- E 船員の教育訓練に関する研究
- F 船員政策、海事法規、海事海運経済に関する研究
- G 海事思想の普及に関する研究

## 資料12

## 委員等の派遣実績

学会名・委員会名等	役職等	氏名
財団法人 海技振興センター		
STW調査検討に関する専門委員会	委員	引間 俊雄
ERMに関する専門委員会	委員	引間 俊雄
外航船員教育連絡会	委員	引間 俊雄
水先人養成支援事業検討委員会	委員	大西 正幸
選考試験問題作成小委員会	委員	大西 正幸
教材等作成検討小委員会	委員	大西 正幸
面接委員会	委員	大西 正幸
タービン代替訓練技術検討委員会	委員	城戸 八郎
海技ネットワークの運営に関する専門委員会	委員	岩瀬 潔
社団法人 神戸海難防止研究会		
	理事	大西 正幸
社団法人 神戸海難防止研究会委員会	常任委員	岩瀬 潔
社団法人 神戸海難防止研究会委員会	常任委員	新井 康夫
社団法人 神戸海難防止研究会委員会	常任委員	城戸 八郎
明石海峡航路東口における航行安全対策検討委員会	委員	岩瀬 潔
神戸中央航路における船舶航行安全対策検討調査委員会	委員	岩瀬 潔
神戸港六甲アイランド地区等浚渫工事における船舶の航行安全対策検討調査委員会	委員	岩瀬 潔
姫路 LNG 共同基地 LNG 船型大型化に伴う航行安全対策等検討委員会	委員	浅木 健司
社団法人 神戸海難防止研究会	常任委員	浅木 健司
操船支援タグボートの運用に関する調査委員会	委員	浅木 健司
大阪港新島建設等工事航行安全対策調査(フェニックス事業)委員会	委員	堀 晶彦
津波による岸壁形状毎の外力調査委員会	委員	堀 晶彦
操船支援タグボートの運用に関する調査委員会	委員	増田 憲司
姫路 LNG 共同基地 LNG 船型大型化に伴う航行安全対策等検討委員会	委員	増田 憲司
堺泉北港大津航路(-14m)工事に伴う船舶航行安全対策調査委員会	委員	岩瀬 潔
新島事業休止に伴う船舶航行安全対策調査関係委員会	委員	堀 晶彦

社団法人 日本航海学会		
	理事	新井 康夫
研究委員会	委員	奥田 成幸
論文審査委員会	査読委員	堀 晶彦
編集委員会	委員	増田 憲司
論文審査委員会	査読委員	増田 憲司
編集委員会	委員	岩瀬 潔
論文審査委員会	査読委員	浅木 健司
社団法人 日本マリンエンジニアリング学会		
論文審査委員会	査読委員	伊丹 良治
エネルギーシステム研究委員会	副委員長	伊丹 良治
国際交流委員会	委員	前田 潔
学会賞受賞審査委員会	委員	前田 潔
研究委員長会議	委員長	角 和芳
社団法人 瀬戸内海海上安全協会		
専門委員会	委員	新井 康夫
専門委員会	委員	岩瀬 潔
社団法人 日本船長協会		
操船シミュレータ研修検討委員会	委員長	浅木 健司
社団法人 日本船舶海洋工学会		
海洋教育推進委員会	委員	石倉 歩
海洋政策研究財団		
WMU友の会ジャパンニューズレター編集委員会	委員	引間 俊雄
内航船員の確保等に関する予備調査専門家検討会	委員	引間 俊雄
内航船員の確保等に関する予備調査専門家検討会	委員	佐藤 圭司
財団法人 日本船員福利雇用促進センター		
進路指導委員会	委員	角 和芳
レスキューロボットコンテスト実行委員会		
レスキューロボットコンテスト実行委員会	委員	前田 潔
「海の月間」小樽地区実行委員会		
「海の月間」小樽地区実行委員会	委員	奥田 宣夫
「海の月間」小樽地区実行委員会	委員	加藤 道郎
唐津港振興会		
唐津港振興会	顧問	石田 正一
国土交通省		
IMO訓練当直基準小委員会(STW41)	委員	引間 俊雄

## 資料13

## 平成21年度研究発表実績一覧

整理 番号	発表タイトル	発表 代表者	発表学会・論文誌名	審査 ・査読
001	ERM Training and Evaluation for Engine Crisis - Using a Full Mission Simulator - (No.2)	城戸八郎	Proceedings of The 9th International Conference On Engine Room Simulators((ICERS 9), No.5, Page1-9	
002	Basic Study on the Application of the System Combined Photovoltaic Power Generation with Fuel Cell to Vessels on the Berth	角 和芳	Proceedings of ISME BUSAN 2009, CM-1-144	
003	A STUDY ON DEVELOPMENT OF ETM TRAINING	近藤宏一	Proceedings of International Conference on Marine Simulation and Ship Maneuverability (MARSIM 2009) , C59-C67	
004	チームマインドの醸成	近藤宏一	海技大学校公開講座	
005	Wave Measurement System Using GPS Signal	奥田成幸	Proceedings of Asia Navigation Conference 2009, pp.31-39	
006	Evaluation Test on Prototype Local Remote-sensing Systems by GPS	奥田成幸	Proceedings of 2010 International Technical Meeting	
007	操船者からみた AIS の利用について	堀 晶彦	日本航海学会論文集第 121 号, pp.103-109	
008	Reliability and availability on onboard AIS information	堀 晶彦	Proceedings of 13th IAIN World Congress, Or13	
009	FIELD OBSERVATION AND STS LIGHTERING WITH COMPARATIVE ANALYSIS - RESULTS OF RELATIVE SPEED	新井康夫	Proceedings of MARSIM'09, M47	
010	Experimental Results of Relative Speeds and Distances in STS Lightering by Application of GPS-based Systems	新井康夫	Proceedings of IONGNSS 2009	
011	Strategic Application of Two Axes Velocities Information for Ship Maneuvering	新井康夫	Proceedings of 13th IAIN World Congress, Or5	
012	船用ボイラの現状と熱媒ボイラプラント	伊丹良治	日本マリンエンジニアリング学会誌、第 44 巻・第 3 号、pp.2～7	
013	2008 年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩	伊丹良治	日本マリンエンジニアリング学会、第 44 巻・第 4 号、pp.2～48	

014	内航船の船体汚損と入渠時機に関する一考察	桑島隆志	日本マリンエンジニアリング学会誌、第 44 巻・第 5 号、pp.100 ~ 104	
015	イオンクロマトグラフィーによる純水および飲料水中のよう存イオンの定量	藤谷達也	海技大学校研究報告、第 52 号、pp.33 ~ 40	
016	Measurement of chlorine stable isotopic composition by negative thermal ionization mass spectrometry using total evaporation technique	藤谷達也	Geochemical Journal in Press	
017	New Training Program for Foreign Seafarers by Marine Technical College	引間俊雄	Proceedings of ISME Busan2009, p.54	
018	PC 版機関室シミュレータにおける操作エラーの気づきに関する研究	池西憲治	第 79 回マリンエンジニアリング学術講演会・講演論文集、pp. 63 ~ 64	
019	Influence by the Passing of Time to Students' Behavior of Operation on PC Based Engine Room Simulator	池西憲治	Proceedings of ISME BUSAN 2009	
020	PSC の法的根拠とその課題	逸見 真	日本航海学会論文集第 121 号、pp.131 ~ 139	
021	Construction of Navigational Information System to Prevent Marine Accident	新井康夫	Proceedings of Asia Navigation Conference(ANC) 2009, pp.330-338	
022	ISM コード利用による船員処罰の回避(上) - 乗組員の個人処罰から法人(会社)処罰へのアプローチ -	逸見 真	海技大学校研究報告、第 53 号、pp.1 ~ 20	
023	オブジェクト指向型エンジニアリング教育教材のデザイン	野尻良彦	海技大学校研究報告、第 53 号、pp.21 ~ 26	
024	事例研究 - 護衛艦「あたご」漁船「清徳丸」衝突事件 -	岩瀬 潔	海技大学校研究報告、第 53 号、pp.27 ~ 41	
025	内航船機関士に対するチーム意識醸成訓練の試み	近藤宏一	海技大学校研究報告、第 53 号、pp.43 ~ 50	
026	ウエザールレーティング有効性の検証 - 北太平洋航路の解析 -	堀 晶彦	海技大学校研究報告、第 53 号、pp.51 ~ 60	
027	フルミッション機関室シミュレータの活用実態	近藤宏一	平成 21 年度神戸大学大学院海事科学研究科戦略的シンポジウム「船用機関プラントシミュレーター (MEPS 活用における現状と将来)」	

資料 14

平成 21 事業年度  
監 査 報 告 書  
( 抜 粋 )

独立行政法人海技教育機構

## 監 査 ( 業 務 監 査 ) 報 告 書

- 1 被監査部門  
国立口之津海上技術学校
- 2 監査区分  
業務監査
- 3 監査の種類  
定期監査
- 4 監査内容  
独立行政法人海技教育機構監事監査実施細則(平成18年海技教育機構達第53号)第2条及び独立行政法人海技教育機構スクールレビュー実施規程(平成18年海技教育機構規程第48号)第6条第1項～第5項に規定する事項
- 5 監査の方法  
職員に対する質問、施設の視察及び諸帳簿のチェック等により実施
- 6 監査の対象期間  
平成20年4月1日から監査日まで
- 7 監査日  
平成21年12月15日(火)～17日(木)
- 8 監査担当者の氏名  
古坂 裕彰(監事)  
松下 宗一(監事)  
石川 修(補佐職員(本部総務課長))

## 9 監査の概要

### ①業務監査時におけるチェックポイント (平成18年度～20年度までにおける監事監査時における指摘等事項から抽出)

講評・指摘事項等	監査時点の状況	21年における講評・指摘事項	備考
①生徒の健康管理面から、学校近くの病院、医者等と何らかの契約を結び、生徒の急病対応に備えること。(特に新型インフルエンザ対応) (業務及び本部管理体制)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従来より、近場の口之津病院の医院長が校医及び非常勤講師として協力してくれている。このような経緯から、現状は病院側と書面による契約等は取り交わしていない。</li> <li>・ 急病人が発生した場合でも、現状は口之津病院が指定医療機関のように対処してくれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 口之津病院医院長の善意からの対処には敬服するが、今後のことを考えて可能な限り口之津病院側と書面による契約を取り交わす方向で検討されたい。当該契約に関しては、機構本部ともよく協議・調整を行い進めること。 (学校側)</li> <li>・ 現在、社会的問題となっている新型インフルエンザへの対応という観点から、生徒の健康管理は勿論のこと、教職員の健康管理及び非常時勤務体制の維持・管理に関し、教育機関及び社会的に注目度の高い組織機関として適切な責務・対応を果たして行く必要があると思慮する。このため、機構本部教育部等が各校等との適時・適切な協議・調整を図り、もって各校における発症緊急時の対応方策(マニュアル)策定や、病院等との書面による適正な契約(覚書を含む)締結に向け早急に対処されたい。 (学校側及び機構本部)</li> </ul>	
②人事異動に伴う、業務引き継ぎで担当する部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状、口頭による引継のみで引継書面等は存在しない。従って、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人事異動等における引継は、今後事務方の人数削減が避</li> </ul>	

<p>署の業務内容の確認のため、適時・適正な引継書の作成管理及び規定の一読をさせること。 (業務及び本部管理体制)</p>	<p>これまで誰一人書面による適正な引継事項確認体制が取れる状況になっていない。</p>	<p>けられない状況にあることも考慮して OJT 対応のみではなく、各校の共通事項をマニュアル化した引継ぎ書面を本部が作成する方向で検討すべき。学校側も各部署ごとの引継ぎ事項を早急に書面として取り纏め作成すべき。(学校側及び機構本部)</p>	
<p>③地域との連携体制如何。(業務)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の行事としては、マリソフェスタを中心とした諸行事(神社の祭り等)に学校側としても生徒・教職員共々に積極的に関与・参加している。</li> <li>・ 地元老人クラブの「生き生きスマイル会」の要請に応え、学校見学を実施している(毎回10～15名程度の参加者がいる)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域との連携体制は、少ない人数で良く対処されている。</li> </ul>	
<p>④公印使用記録簿の備置及び管理状況。(業務)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公印は庶務課長が一括管理をしており、押印記録についても電子データによる管理を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後は、押印記録簿の定期的な学校長等の検認を受ける体制を整備されたい。(学校側)</li> </ul>	
<p>⑤出勤簿への押印漏れはないか。(業務)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出勤簿の押印漏れはなし。</li> <li>・ 20年度における年次有給休暇取得状況は教職員平均で10.5日、教員だけの平均では11.5日という状況であった。可能な限り年次有給休暇取得を推進している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出勤簿管理上は問題なし。</li> <li>・ 年次有給休暇取得も可能な限り取得されていた。</li> </ul>	
<p>⑥後援会組織運営に関して、財源管理等を保護者による自主管理体制に変更すべき。(業務及</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 21年度現在、保護者総数96名で地元の者が少ないことや、財源管理を保護者に任せる事に不安がある。更には、緊急時の出納</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該取扱問題等に関しては、機構本部として統一的な見解及び対処方針を明らかにして、今後指摘等を受けないよう早急な善処</li> </ul>	

び本部管理体制)	が難しくなり学校運営面での支障の発生する恐れもある。	を要望する。(機構本部)	
⑦旅行命令簿・依頼簿の必要事項記載状況等。(業務)	・現状も適正に管理・処理されている。	・特記事項等なし。	
⑧図書室の整備、蔵書の充実、運営・管理状況。(業務・会計及び本部管理体制)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状、生徒による自主管理体制として図書委員会が設置され、体制整備がなされている。</li> <li>・ 蔵書に関しては、保護者からの単行本等の贈呈により少しずつ対処している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蔵書内容及び蔵書数の確保に努力をされている点は評価できる。</li> <li>・ ただし、現状の蔵書内容は貧弱で特に教養本が不足している。今後は、機構本部とも積極的に協議して教育機関として、可能な限り教養書等を古本屋等を活用した整備体制を構築されたい。(学校側及び機構本部)</li> </ul>	
⑩全体的な施設整備・教育環境整備等に関し、計画的な整備計画を本部と連携して策定しているか(短期的対応分、中期的対応分、長期的対応分)。(業務・会計及び本部管理体制)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かなりの部分で計画的に施設整備が図られている。</li> <li>・ 中・長期的な観点からの整備としては、寄宿舎の外壁等修繕が考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設整備に関しては、基本的に計画的な取り組みをしていた。</li> <li>・ 今後の事として、中・長期的な観点からの教職員による定期的な施設調査等を励行されたい。(学校側)</li> </ul>	

## ②民間監査法人による指摘事項

指 摘 事 項	監 査 時 点 の 状 況	21年における講評・指摘事項
・財団法人海技教育財団からの依頼出張時に、当該旅費について校友会名義の銀行口座に振り込まれ、これを出張者に渡している。当該金銭も預かり金として処理するかどうかの統一の方針策定が必要(会計上も	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該事案は、当時出張者の個人口座番号が不明で、やむなく校友会名義の口座に依頼出張旅費を入金し、その旅費を出張者に手渡した事案である。</li> <li>・ 現在は、個人口座への振込みを原則として対処している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該事案に関する統一の見解・対処方針は、今後のことを考えて機構本部が取り纏め提示すべきものと判断する。(機構本部)</li> <li>・ なお、依頼出張に関しても依頼元からの依頼文の内容が各校ばらばらな事もあり、依頼文書中に出張期間・場所・出張旅費の支給元・支給額等を記述した内容に統一</li> </ul>

預かり金として計上するかどうかを含む。)		し、税制上も倫理規定上も問題の起こり得る可能性を極力排除すべきと判断する。(機構本部)
----------------------	--	---

③独立行政法人海技教育機構スクールレビュー実施規程第6条第1項第3号～第5号関係チェック表

項 目	スクールレビュー実施時点結果	現 状	講評及び指摘事項
①職員の服務状況	<p>(レビュー実施日：20年10月7日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページ研修を生かし、自校のホームページ作成に役立っている。</li> <li>・ 研修を行った内容は、報告書により共有化を図っている。教員は、生徒指導に熱心に取り組んでおり、校内清掃、挨拶運動などの生徒会活動も積極的に行われている。特に「朝の読書」という取り組みは、大変にユニークかつ効果的である。</li> </ul> <p>(学校側からの要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修に関し、多方面の希望が出された。それぞれの目的、概要等をまとめ本部へ提出。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状も左記と変わらない状況であった。</li> <li>・ 要望に関しては、経緯は不明であるが内容的に消滅している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特記事項等なし。</li> </ul>
②校舎等の施設、設備、備品等の管理及び整備状況	<p>(レビュー実施日：20年10月7日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機関科教材の老朽化が目立つが、校内、艇庫ともに整備状況は行き届いている。</li> </ul> <p>(学校側からの要望等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グランドの整備及び、冠水を防止したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同窓会が一部を掘り返して整備してくれた。(水</li> </ul>	<p>施設設備に関しては計画的な修繕・建設を図るためにも、学校職員による定期的な確認・点検を実施すること。当該点検等に基づく施設等整備の計画的な要求体制につなげて行くこと(安全面・衛生面等から緊急度の高い施</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内樹木 (フェニックス) を伐採の上撤去したい。排水ポンプの取替えを実施したい。</li> <li>・ 本館他電気配電盤内コンデンサーの一部が経年劣化により火災に至る危険性が高い。</li> <li>・ 調理室の大型冷蔵庫が内部も腐食・騒音過大という状況なので新替したい。</li> <li>・ 実習棟屋根が30年経過による雨漏り等が発生しており、実習に多大な支障をきたしている。実習用ガスボンベの屋外格納庫を新設したい。</li> <li>・ 機関実習で使用する主機、ボイラー、油洗浄機の新替を希望。</li> <li>・ GPS コンパスの設置を希望。</li> </ul>	<p>はけの問題は残っている。) )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20年10月に44万円の予算を付けていただき、撤去した。20年11月に40万円の予算を認めてもらい新替した。</li> <li>・ 九州保安協会よりの指摘もあり、20年12月に12万円の予算で対応済み。</li> <li>・ 保健所の検査を受け、21年度に45万円の予算要求中。</li> <li>・ 20年3月に346万円の予算で二分の一の箇所を修繕済み。残り二分の一460万円を要求中。屋外格納庫については、21年8月に81万2千円の予算で新設済み。</li> <li>・ 高額な予算を必要とするので、計画的に本部のほうへ要求していく予定。</li> </ul>	<p>設設備の整備を優先させるべきと思慮)。</p>
--	---	---	----------------------------

<p>③寮の運営状況</p>	<p>(レビュー実施日：20年2月5日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老朽設備が多く、特に、給油管、水道管の老朽化が進んでいる。</li> <li>・ 外壁のひび割れも多い。</li> <li>・ 生徒は礼儀正しく、指導が行き届いているという印象を受けた。</li> </ul> <p>(学校側からの要望等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄宿舎2階浴室の浴槽タイルが経年化により剥離しているので、張替え工事を実施したい。</li> <li>・ 寄宿舎内の各階に一箇所は洋室トイレを設置したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況は変わらない。</li> <li>・ 生徒の礼儀等も変わらない。生徒指導が行き届いている。</li> </ul> <p>・ 現在予算要求中。</p> <p>・ 寮は2階にのみ洋室トイレが1個設置され、本館も1個だけ設置されている。</p>	<p>寮の整備に関しても上記②に関する所見と同様。</p>

#### ④総合見解

- ・ 総体的には、少人数・少ない予算等の中で、教員及び事務職員は良く務めていると判断する。
- ・ 学生の授業に対する取り組み姿勢には前向きなものを感じたし、生活態度も来訪者に対する礼節等に関する日頃の教官からの訓導が生きていると感じた。
- ・ 募集体制及び募集結果の分析・検討、就職状況の分析・検討、就職後の状況把握・分析・検討をもってより良い船員教育体制へ反映することとされたい。(口之津校及び機構本部)
- ・ 業務引継ぎ体制は、従来の引継ぎ書類をベースに共通事項については本部にてマニュアル化し、個別事項について各校別により良い内容の引継ぎマニュアル等を策定すべきと思慮。業務毎の各根拠となる規定についても、研修等にも重要な部分については一読以上の位置づけにすべきと思慮する。(口之津校及び機構本部)
- ・ 競争入札に付すべき契約は、本部会計課通知済額の100万円を超える練習船の中間・定期検査及び修繕整備時等における、入札予定価格の積算根拠及び積算参考資料に関しても機構本部からの方針の明示を早急に対処すべき。(機構本部)
- ・ 口之津校も他校と同様、後援会口座・資金管理運用、奨学金口座・資金管理運用、同窓会口座・資金管理運用のそれぞれ毎の口座管理や資金出納管理運用に関する現状改善方針等を、早急に機構本部として整理し各校宛通知すべき。(機構本部)
- ・ 学籍簿の保管・維持・管理に関して、口之津校だけではなく全ての学校において原本の保管・管理上耐火性保管庫等を整備するか、電子データ化(バックアップ体制を含む。)を推進し各校及び機構教育部における管理等に関する適時・適正な共通指針を策定・通知すべき。(機構本部)

今後は、上記①～③の「講評及び指摘事項」欄記述内容を検証(対応計画策定(短期実施計画分、中期実施計画分、長期実施計画分)をもって検証内容に対応すること。)し、口之津海上技術学校において単独で措置できる内容については早期に着手し、本部(教育部等)と協議・調整・検証が必要な事項については必要な調整等を行いつつ、教育機関として学生を主眼としたより良い環境(施設・設備・勉学)・体制整備に可能な限り早期に改善を図られたい。

機構本部(教育部等)の更なるリーダーシップと企画・調整・協議等能力の発揮を期待する。

追記：当該報告書指摘等事項中、報告書の送達がなされてから一月を目途に口之津校単独で判断できる事項に関しては「適切な措置を講ずるとともに」その結果理事長の承認を得て、書面による回答を行うこと。(フォローアップ調査として別途監事より発出いたします。

## スクールレビュー実施報告書（抜粋）

実施校名： 国立小樽海上技術学校  
実施日： 平成21年 9月17日（木）～18日（金）  
実施者： 理事長 鋤柄 好利  
随行者： 教育課主幹 高山 恵一

## 1. レビューの実施概要

17日14：30の艇庫視察から、翌日の18日にかけて、スケジュール表にしたがって実施した。

練習船に乗船し、実習の様子を視察した。

学校が準備した資料に沿って、校長から学校概要及び教育の現状等の説明を受けた。説明内容に応じて教頭、庶務課長、教務課長が同席した。

授業見学と校内視察を併せて実施した。

12：10から学校教職員との懇談会を実施し、各職員との意見交換を行った。

## 2. 点検結果

項 目	点 検 結 果
(1) 教育の現状聴取及び実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学者数、卒業者数ともに問題はないが、応募者が徐々に減少しているため体験入学を前年度より1回増やし11月に第3回目を予定している。</li> <li>・ 北海道においても高校全入時代となってきたことから、中学校からの進学は近くの高校へとなりつつある。そのため中学校訪問時に、資格取得や就職面、休暇には地元に戻れるので船に就職すれば地域へ貢献できることなどの特色を打ち出して説明を行っている。</li> <li>・ 中学校訪問や中学校説明会（5回実施予定）、学校案内送付（中学校用として計1540部予定）、新聞・雑誌・折込広告、その他地下鉄車内広告（ステッカー）など、募集活動を強化している。</li> <li>・ 四級海技士の口述試験合格率向上のため、8日間×6時間の補講と模擬試験を実施している。また、二級海技士筆記試験の科目別合格者（3年生1名、運用、法規、航海）を出している。</li> <li>・ 教育効果を高めるため、実習にトートバッグ製作を取り入れるなど生徒の達成感を高めるための取り組みを行っている。</li> <li>・ 生徒会やクラブ活動ともに熱心に取り組んでおり、特にクラブ活動ではアメリカンフットボール部が北海道予選で勝利を挙げたり、ヨットでは高校総体道予選において1位となり高校総体道代表及び国体道代表となるなど好成績を収めている。</li> <li>・ 教育機材は、古いものもあり整備を行って使用しているが、整備が追いつかない状態である。特に練習船は経年劣化による故障が出てきているが、整備はその都度行っている。</li> <li>・ 練習船は中間検査を行ったが、ヨット購入の補助になればとして、自分たちでできる部分については教員が行うなどで前回比およそ100万減の663万円で完了している。</li> <li>・ 外壁にひび割れが見られる箇所があるが、説明によると冬期の凍結によるもので、現在の日常業務には支障はないが、将来的に整備は必要と思われる。</li> </ul>

(2) 教職員への教育指導状況	・現在数が定員より1名減という状況であるが、現状としては問題は見られない。
(3) 校舎等の施設、設備、備品等の管理及び整備状況	・校内はよく清掃されており、また設備、備品とも整理され管理が行き届いていることが推察される。 ・職員室前の廊下や、生徒がよく通る通路などの掲示板では、求人の状況を掲示したり、国家試験の合格者が掲示されており、見やすさや見栄え等が工夫されて展示されていた。
(4) 寮の運営状況	・5月から6月にかけて盗難事件が発生したが、解決した。その後は問題等は発生せず落ち着いた状態である。 ・寮内各所はよく清掃されており、ゴミ処理も適切に行われている。

### 3. 所見

校内施設はきれいに清掃され、艇庫においても端艇やヨットなどが整理されており、日頃からよく整備されていることがうかがえる。

生徒は全体的に落ち着いており、服装、態度ともに問題は感じられず、授業の取り組みも良好であった。

現状として、定員に比べて教員数は1名減であるにも関わらず、基礎学力向上のための補講や四級海技士の口述受験対策の補講に取り組むなど、教職員が協力して教科指導に力を入れている。

募集活動においては、高校全入時代ということから応募者減が懸念されるが、体験入学や中学校説明会への出席を増やすなどこれまで行ってきた活動内容を充実させるとともに、新聞への折込広告や地下鉄へのステッカー掲載など、新たな活動にも取り組んでおり、応募者増加に向けた学校としての意気込みを感じた。

生徒の基礎学力の低下が問題提起された。少子化による応募者数の減、生徒数確保といった根本的な問題が背景にあり、学校としての取り組みもさることながら、このことは海上技術学校、海上技術短期大学校でも大きな問題であり、機構としての対応が重要になると思われる。

また、スケジュールについては、前回(19年度に実施)の内容と変わらないものの、9:10から17:00までの1日かけて行った前回に比べ、今回は1日目の午後半日と2日目の午前半日に分けて実施した。

授業見学及び校内視察と点検実施は2日目に実施したが、予定していた時間内に収まらず、結局講評のとりまとめの時間を取ることができなかった。

スクールレビューの移動の日程や行程を含め、今後検討が必要である。

### 4. その他必要と認める事項

#### (1) 聞き取り及び視察における学校側からの要望事項

教員研修及び教育業務

- ・8月に行われたファーストステップ研修に参加した岩本教諭からは、参加して良かったという声が上がっており、セカンドステップ、ミドルステップといった研修についても是非実施して欲しいとの要望があった。
- ・各校の教員の技能を一定の水準に保つためにも、溶接に関する研修を実施して欲しいとの要望があった。
- ・小樽校は8月末から2学期が始まることから、夏期休暇における研修の日程については開催時期を考慮して欲しいとの要望があった。
- ・30名校のため40名校に比べて教職員が2名少ないが教育業務は同じであり、40名校と比べると教職員の負担は大きいので、1名でも増員して欲しいとの要望があった。

#### 施設整備

- ・L L 教室にパソコンを設置してあるが、机の構造上、卓上が狭くマウスを動かすスペースがなく授業の運営には支障が出ているとの報告があった。
- ・来年度から賄い業務の外注化が始まることから、保健所に視察してもらい改善指導等あれば本部に報告するので、予算措置等を検討して欲しいとの要望があった。
- ・グラウンドは、表面の土が流され小さな石が露出し水はけも悪いため、表土を削り砂を入れる等改善をして欲しいとの要望があった。

#### (2) 懇談会における質疑概要

##### 生徒の基礎学力低下について

- ・年々基礎学力が低下してきており、驚くほど授業を理解できない生徒がいる。教科書が読めない生徒、うまく自分を表現できない生徒が出てきており、全体的にも低くなっている。
- ・学力の低い生徒に合わせて授業を行うと、上の生徒がやる気をなくしてしまう。やる気を起こさせるような動機付けが必要なのではないか。ヨットを担当しているから言えることかもしれないが、部活動を通して動機付けを行うことも重要だと考えている。
- ・普通高校と同様に教育をする学校として認識している中学校や保護者がいるのはありがたいが、船員養成という観点からすると生徒が少なくてもいいから資格を取得するため特化した学校に変化してもいいのではないか。

##### 理事長

応募者が少ないから学力があまりなくても入学させる、すると学力がある生徒は段々来なくなる。どこかで、こんな流れを断ち切らないともっと低くなっていく。そのためには、なるべく多く集めて、選抜する。

高卒認定というのも大きな要素であり、大事である。高校の授業料無償化もあり今後の流れを注目していきたい。やはり、入口でいい生徒を多く入れることが重要ではないか。補講で頑張っている先生方のためにも、教員の負担を軽くするような事ができればいいと思うが、ヒントがあればどんどん出して欲しい。

生徒の行動について

- ・あいさつができない生徒がいる。物を大切にしない生徒がいる。当たり前の事ができない生徒が増えてきているのではないか。
- ・新任教員ということからか、特に上級生が指導に従わないなど生徒の指導に苦労している。

理事長

現場の皆さんは大変ご苦労されていると思う。

いろいろあると思うがこれからも頑張ってもらいたい。

インフルエンザの対応について

- ・入学試験の際に、受験者がインフルエンザに罹患した場合、どのように対応すればいいのか本部で検討してほしい。

理事長

教育部で検討する。